紙芝居上演活動、犯罪被害者支援講演会の聴講、犯罪被害者への支援活動

ボランティアサークルあい　犯罪被害者支援チーム

活動の目的

親しみやすい紙芝居を通して、低年齢から命を大切にする人権意識を高めることを目的とする。犯罪被害に遭った方の物語に加え、近年増加中のSNSいじめに関する物語を用いて啓発活動を行う。小学校高学年からスマホを所持する率が高まっているが、対人コミュニケーションスキルが不十分であるため、SNS上でのコミュニケーションで相手の心を傷つける認識が弱く、人権意識も育ちにくい。そこで、SNSいじめに関する紙芝居を上演し、その後、命をテーマにしたグループワークを行うことで、人権に配慮した関わり方を意識し、SNSいじめの被害による自殺防止および加害行為の抑制につなげていく。また、SNSいじめ啓発活動に携わる高校生や大学生側も命を大切にする心を醸成することにもつながり、社会のリーダーとしての意識を高めることにもなる。

警察、カウンセラー、学校の先生や家庭にも協力を得ながら、大学生と高校生が連携し、若者の視点で子どもたちに命の大切さについて啓発活動をすることにより、地域との連携が広がり、自分も周りにいるみんなも大切な命である認識を植え付け、安心して地域で暮らせる社会環境づくりを目指す。

活動の内容及び経過

高校1年生を対象に実施した「自分もみんなも大切な命プロジェクト」活動では、犯罪被害者の実話をもとにした紙芝居動画を上演したのち、大学生がファシリテーターとなって5人程度のグループを構成し、命の大切さについてディスカッションを行った。また、近年SNSいじめによって自殺をするケースが増えていることから、対面のいじめではなく、SNS上でのいじめ行為について考えるきっかけとなる紙芝居作成に取り組んだ。

具体的な活動内容は、以下のとおりである。

5/20：岡山県警主催犯罪被害者支援活動講演会手伝い・参加
5/27：犯罪被害者遺族（清水誠一郎さん）による講演の手伝い・参加
9/13：KTCおおぞら高等学院1年生を対象に「まおちゃんの新しい靴」を上演、グループワークを実施
11/3：山陽学園大学大学祭「犯罪被害者支援シンポジウム」開催
11/25：VSCO主催犯罪被害者遺族（武るり子さん）講演会手伝い・参加
12/8：岡山大学主催犯罪被害者支援シンポジウム手伝い・参加
7月-1月：東商業高校、芳泉高校と打ち合わせ（ムービー化、グッズ開発、インドネシア連携を相談）
4月-2月：SNSいじめバージョン「大切な友達」製作（日本語版・英語版）
3月：SNSいじめバージョン「大切な友達」紙芝居印刷完成
9月-2月：「まおちゃんの新しい靴」手話、中国語版作成

インドネシア語版はインドネシアの国立大学、インドネシア大学の日本語を学ぶ学生らと共に作成し、インドネシアの日本大使館等に紙芝居を置いてもらうことを予定していたが、新型コロナの影響により困難であると判断し、本学のインドネシア語ができる学生が作成する方向で検討中である。

活動の成果・効果

高校生を対象とした「自分もみんなも大切な命プロジェクト」活動では、高校生が車の運転免許を取得する直前であるため、無謀な車の運転をすることにより、大切な命を危険にさらす可能性があることをしっかりと認識できる機会となった。また、家族の運転についても振り返り、安全な運転がとても大切であることを伝えたいという気持ちになるように促すことができた。さらに、ファシリテーターとなった大学生側も、自らの行動を見直し、改めて命の大切さを守る必要性を強く感じ、気持ちを引き締めることができた。

また、岡山県警主催の犯罪被害者支援講演会への参加は、被害者の生の声を聴くことを通して、だれでも突然被害者になってしまう理不尽さや、その後に生きていく上での必要な支援について深く考えることとなった。

このように、大学生と地域の高校生が連携して活動することにより、社会のリーダーとしての自覚が芽生え、命の大切さを実感し、自分や周りの他者に対する思いやりの気持ち醸成することができた。

今後の課題と問題点

新型コロナの影響により、大学側から2月以降部活動を自粛するように要請があり、R2年度以降も新入生を勧誘する機会もない。小・中学校での出前授業が困難である。グループワークを通して、命の大切さを醸成することも活動に含まれていたが、新型コロナ感染症予防対策として密になったディスカッションができない。また、グループワークを実施する「ファシリテーター」養成講座も行う必要があるが、これも密になるために実施できない。

●代表者：上地玲子　●所在地：岡山市中区平井
●TEL：086-901-0677
●URL：http://www.sguc.ac.jp/
●設立年：2017年　●メンバー数：61名